



酪農総合研究所
所長 戸邊誠司

皆様へご挨拶

酪農総合研究所は、雪印メグミルクグループ使命の一つである「酪農生産への貢献」を具現化すべく、グループ各社や関係機関との連携を深め持続可能な酪農の強化に向けた調査研究や経営分析等の取り組みを推進していくことで、酪農経営への支援・サポートを実行し酪農生産基盤強化に取り組んでまいり所存です。今後とも酪農乳業関係者の皆様方のご助言、ご指導をよろしくお願い申し上げます。

酪総研創立の歴史



初代所長 大原久友
(帯広畜産大学名誉教授)



酪農総合研究所 創立総会
(昭和51年3月15日)

酪農総合研究所は1976年（昭和51年）に当時の雪印乳業株式会社の創立50周年記念事業の一環として設立された、わが国唯一の民間による独立した研究機関であった。2005年（平成17年）の創立30年の節目を持って株式会社を解散。以後、雪印乳業の社内研究所として事業を継承し現在に至る。

酪総研の酪農生産への貢献

酪農総合研究所は、主体性と研究内容の客観性・普遍性を旨としています。北海道、都府県を問わず全国の酪農・乳業を対象に情報を収集し、酪農に関する技術・経営・経済・政策・生活など各分野の調査研究を通じて、わが国酪農の発展と、酪農家の経営安定に寄与することを目的としています。具体的な内容については以下の図をご参照下さい。

酪農総合研究所の基本方針及び研究課題

- 基本方針** 酪農産業に関する幅広い分野の科学的・実践的調査研究とその成果の普及を通じて、わが国酪農の発展と食糧の安定的供給に寄与してまいります。
- 基本姿勢** 公共性・独立性の高い調査研究活動を実践することを基本姿勢といたします。
- 研究課題**
 - ・酪農生産に間接的に関係するもの
 - (1) わが国の酪農政策に関する調査研究
 - (2) わが国の生乳及び牛乳・乳製品の供給と消費に関する調査研究
 - ・酪農生産に直接関係するもの
 - (3) 酪農経営の安定的向上に関する調査研究
 - (4) 国産飼料の生産強化と有効利用に関する調査研究
 - (5) 乳牛飼養管理の向上に関する調査研究
- 酪農サポート**
 - (1) 研究成果の普及・推進
 - (2) 経営サポート(経営改善・自給飼料生産・乳牛飼養管理等)
- 広報活動**
 - (1) 出版・HP運営・講演・シンポジウム等の開催
 - (2) 酪農と乳の歴史館の活用

グループ各社と連携し総合力で「酪農生産への貢献」を実践

・酪農生産者
・消費者等
・ステークホルダーからの課題

政策からの課題

助言

当社グループからの課題

酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針、等

【酪総研選書】図書シリーズのご案内

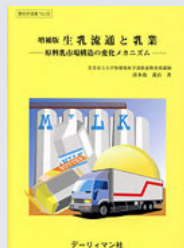
酪農総合研究所での研究成果や最新の酪農情勢に関わる話題について企画・調整を行い、デーリヤマン社から「酪総研選書」として発刊しています。ここでしか購入できない貴重な資料となります。この機会に、ぜひご購入を検討されてみてはいかがでしょうか？酪総研選書のご購入は、以下の二次元コードをご参照下さい。



躍動する中国の酪農乳業と生乳流通
¥3,080 (税込)



最新版 目で見える牧草と草地
¥2,619 (税込)



増強版 生乳流通と乳業
¥2,343 (税込)



(株)北海道協同組合通信社
(DAIRYMAN)



●住所

〒065-0043
北海道札幌市東区苗穂町6-1-1
6-1-1 Naebo-cho Higasi-ku, Sapporo City,
Hokkaido 065-0043, JAPAN

●連絡先

TEL 011-704-2131
FAX 011-704-2417

●酪総研ホームページ

酪農総合研究所URL
<https://www.rakusouken.net/>



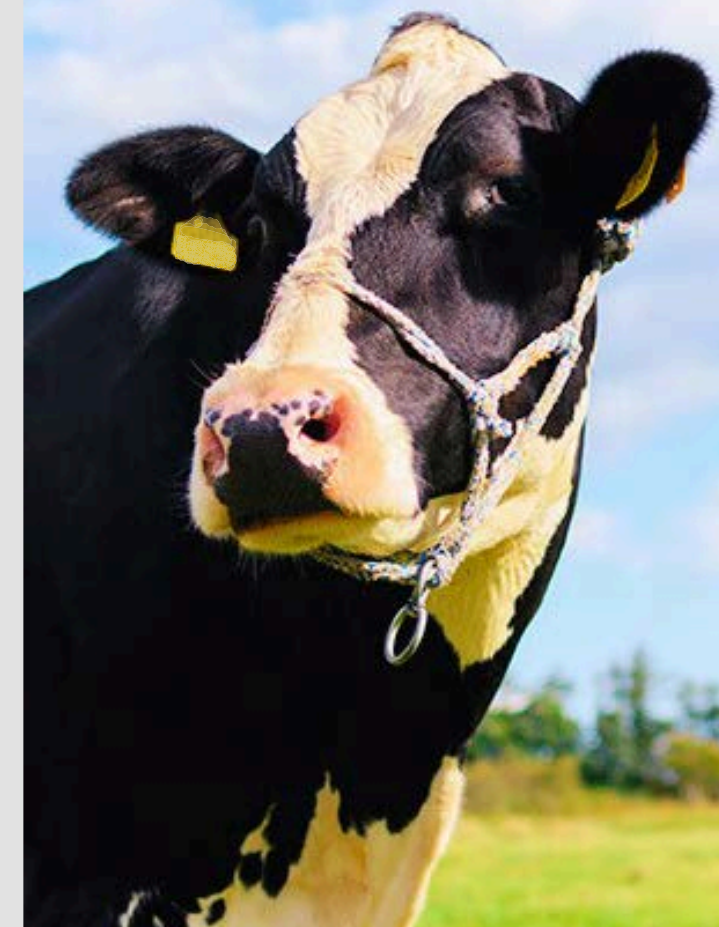
酪総研HP二次元コード



「酪農の未来を拓くお手伝い」

要覧

ORGANIZATION
CATALOGUE



酪農総合研究所

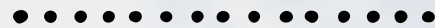
RESEARCH & DEVELOPMENT CENTER
FOR DAIRY FARMING



未来は、ミルクの中にある。
雪印メグミルク

● 主な研究事業

酪総研シンポジウム（1978年～）



酪農乳業をめぐる諸問題をテーマに取り上げ、皆様と情報共有を図るとともに、我々の研究内容及び諸活動を多くの方々に理解を深めて頂き、その普及を図ることを目的に1年に1回「酪総研シンポジウム」を開催。地域酪農の課題解決に向けた討議を行い、知見の共有・普及に努めている。



実証圃場（2008年～）



酪農経営の持続的発展に重要な、自給飼料の生産・利活用に立脚した経営であることを基本とし、関係機関のご協力の下、自給飼料生産圃場を選定して土壌管理、植生改善、サイレージ調整技術等の自給飼料生産と関連技術の利活用のための調査研究を実施。



経営実証農家（2009年～）



持続的酪農経営に関する調査研究で、自給飼料生産の生産拡大・利活用・総合的な飼養改善・経営分析診断により、酪農経営の安定化と向上を目指す。対象酪農家と共に5年間という中長期スパンに渡り、関係機関・団体と連携し、酪総研が総合推進役となり事業を推進。



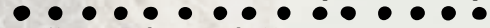
経営分析診断（2020年～）



酪総研版の経営診断を行い、酪農家の経営支援を側面的に支援している。個々の酪農経営・技術に関する客観的データを分析・診断をし、酪農家の経営安定へのサポートに向け、対象農家からのヒアリングや各種データの収集を行い、経営分析を行っている。



大学との共同委託研究（2021年～）



大学などの専門研究機関と共に共同委託研究を実施している。直近では、牛舎環境と乳用牛における生産性の研究やメタンモニタリングのベースライン調査を積極的に行っている。また、研究の内容の一部は学生の卒業論文でも発表されている。



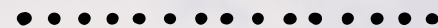
他社とのGHG削減に向けた研究（2021年～）



温室効果ガスの一種であるメタンガスの削減は世界的にも関心が高まっている。環境にやさしい酪農経営の実現に向け、乳牛のメタン削減に関する調査研究を行っている。今後は、関係機関と連携しカーボンクレジットの創出に関わる検討を行っている。

● 主な研究成果

過去の実証圃場の取組み



- 「気象リスクを分散する自給飼料生産の取組み」 北海道大樹町
- 「トウモロコシサイレージ利用による自給飼料率アップ」 北海道興部町
- 「OG・PR混播草地の栽培法確立」 北海道大樹町
- 「既存牧草地除草処理によるOG・PR混播による植生改善」 北海道幌延町
- 「飼料用トウモロコシの不耕起栽培」 静岡県富士宮市
- 「トウモロコシ栽培跡地へのフロストシーディングによる牧草地造成」 北海道厚真町
- 「アルファルファ（ケレス）導入による草地の経年変化、栄養価の検証」 北海道別海町
- 「富士宮市地域における植生改善」 静岡県富士宮市
- 「耐病性F1トウモロコシ、需要喚起対策」 岩手県岩手町
- 「リードキャナリーグラス主体草種、簡易更新の技術確立と普及」 北海道八雲町

経営実証農家の取組み



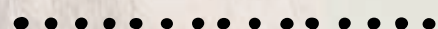
- 第Ⅰ期 2009～2011年度（フォロー：2012～2013年度）大樹・中標津町
- 第Ⅱ期 2012～2014年度（フォロー：2015～2016年度）興部町
- 第Ⅲ期 2016～2018年度 興部町
- 第Ⅳ期 2017～2021年度 標茶町

酪総研シンポジウム

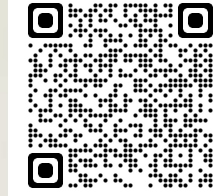


- 2024年2月1日開催
「今こそ飼料の国産化を！PARTII」 ～飼料自給率向上に向けた課題とは～
- 2023年2月2日開催
「今こそ飼料の国産化を！」 ～それぞれの地域で出来ることを考える～
- 2022年2月3日開催
「酪農現場のリスク管理を考える！PARTIII」 ～見えない敵から牧場を守る～
- 2021年2月～3月開催（WEB開催のみ）
「酪農現場のリスク管理を考える！PARTII」 ～暑熱を考える～
- 2020年1月31日開催
「酪農現場のリスク管理を考える！」 ～気候変動に備える～

主な外部発表



- 財務と会計学び経営改善を
DAIRYMAN（連載）…研究主事 三木保志
- 植生改善と酪農経営
北海道自給飼料改善セミナー（講演）…研究員 酒谷周平
- 実証 農場改善 経営実証農家の取組み
DAIRYJAPAN（連載）…研究顧問 宇高健二
- 雪印メグミルクグループの酪農生産への貢献
DAIRYJAPAN（掲載）…釧路駐在 課長 越智成東
- 酪農経営における草地更新の経済効果の発現経過 ～試算モデルと事例による分析～
酪農学園大学紀要第43巻1号（論文）…研究員 酒谷周平
- 経営実証農家の取組み内容（興部町！牧場）
雪たねニュースNo356（掲載）…研究顧問 宇高健二
- 経営実証農家の取組み内容
ワールドデイリー-サミットポスター発表…研究顧問 宇高健二
- 経営実証農家の取組み内容（大樹町M牧場）
雪種ニュースNo346（掲載）…研究員 笠原 伸樹



外部発表資料二次元コード

● 調査・研究の普及

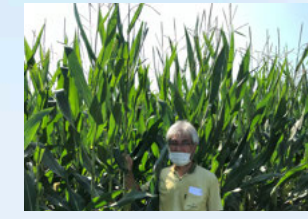
酪総研ホームページでは、関係者の方に酪農に関する調査・研究報告の掲載や、酪総研シンポジウムの動画配信などを行っております。詳しくは要覧裏の二次元コードをご参照下さい。



● 酪総研グラフィック



実証圃場 1番牧草の収量調査



背丈を超える飼料用トウモロコシ



酪総研シンポジウム



経営実証農家 定期巡回



雪印メグミルクグループ 酪農研究会



スタックサイロの踏圧密度調査

酪農研究グループ 職員紹介



副部長
越智成東



担当部長
鶴尾正紀



研究リーダー
柳瀬兼久



研究主事
野崎則彦



研究員
板坂丞時



研究員
佐々木貴史



研究員
大山冬馬